

令和3年度大学コンソーシアム富山
「学生による地域フィールドワーク研究助成」事業募集要項

1 趣 旨

大学コンソーシアム富山（以下「コンソーシアム」という。）に加入している富山県内高等教育機関（以下「県内高等教育機関」という。）に在籍する学生が、富山県内の地域がもつ課題について、地域と一体となつて行う、解決方策の提言や課題解決のための実践的なフィールドワーク研究を支援することで、次の世代を担う学生と県内の地域との交流の拡大、連携を促進し、地域の活性化を高めるとともに、学生にコミュニケーション力や課題解決力を身につけてもらう。

2 募集する助成対象研究の内容

(1) 研究題目内容

A 自由研究部門

各自で設定した研究テーマ（上記趣旨に合致したもの）に基づき、県内においてフィールドワークを行い、そこにある魅力や課題を引き出し、県内の自治体等が今後取り組むべき、地域の魅力の活用や課題解決策等を提案する。

B 課題研究部門

県内自治体から提案のあった研究テーマ（別添）に基づき、県内においてフィールドワークを行い、地域の魅力の活用や課題解決策等を提案する。

(2) 助成対象研究

県内高等教育機関に在籍する学生が所属するゼミナール（講座、専攻）等（プロジェクト授業を含む。）の専門性を活かし、教員の指導のもとに学生が実施する県内でのフィールドワーク研究であること。

(3) 助成金額及び助成件数

助成金額：1研究当たり20万円を限度とする。

助成件数：合計10件程度

(4) 助成対象経費

交通費、消耗品費（研究上必要な新型コロナウイルス感染防止対策に係る消耗品を含む）、通信費、会場使用料、保険料、その他研究に要する経費等とする。

ただし、賃金、謝金、備品購入費、飲食費及び応募する研究目的以外の経費は除く。

3 募集締切日

令和3年3月5日（金）（必着）

4 研究期間

本助成金の対象となる研究は、令和4年1月31日（月）までに終了するものとする。

5 応募方法及び応募書類

- (1) 助成対象となる研究を提案する代表学生は、所属するゼミナール（講座、専攻）等（プロジェクト授業を含む。）の指導教員を経由して提出すること。
- (2) 指導教員は、応募書を各大学等の事務担当に提出し、各大学等の事務担当は応募締切日までにe-mailまたは郵送により、次項の送付先まで提出するものとする。
- (3) 応募については別紙様式1によること。（採択決定後に1年生等のメンバー追加は可能。）

6 応募書の提出先

提出先は以下のとおり。

(e-mail) info@consortium-toyama.jp

(郵送) 930-0002 富山市新富町1-2-3 CiCビル5階
大学コンソーシアム富山事務局

7 審査及び交付の決定

- (1) コンソーシアムは、提出のあった応募書類について、審査委員会を設置し、助成対象研究を審査し、地域貢献部会において助成金の交付を決定する。
- (2) 地域活性化への寄与、研究成果の地域への還元等の観点を踏まえ、地域バランスに留意した上で決定する。
- (3) コンソーシアムは交付決定したときは、当該申請者に対し速やかに交付決定を通知する。

8 研究成果の報告

助成対象事業完了の日から30日を経過した日又は令和4年1月31日のいずれか早い日までに研究成果報告書(別紙様式2)をコンソーシアムに提出すること。

また、収支実績報告書(別紙様式3)については、研究目的購入品の支出完了後すみやかに各大学等の事務担当者からコンソーシアムに提出すること。

9 研究成果発表

- (1) 本助成を受けた研究は、令和4年2月下旬(予定)に開催する研究成果発表会において、研究成果を発表するものとする。
- (2) コンソーシアムは、研究成果報告書を関係者及び関係機関に配布する。また、コンソーシアムのホームページに掲載する。

10 表彰

提案内容をはじめ、研究成果発表会におけるプレゼンテーション等を審査し、別に定める表彰要項により「大学コンソーシアム富山地域研究賞」を授与する。

11 その他

フィールドワーク研究の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染防止に十分留意の上で取り組んでください。また、応募書等様式については、大学コンソーシアム富山のホームページに掲載してありますのでご利用ください。

URL http://www.consortium-toyama.jp/student_tiiki.html

[担当]

〒930-0002 富山市新富町1-2-3(CiCビル5階)
大学コンソーシアム富山事務局(竹内)
TEL 076-441-2455 FAX 076-441-2456

学生による地域フィールドワーク研究助成「課題研究部門」課題一覧(令和3年度実施分)

No	自治体等名	地域課題名	概要
1	富山市 (観光政策課)	富山市教育旅行誘致事業について	<p>修学旅行等の教育旅行については、コロナ禍により行き先変更などの動きがみられており、富山市では目的地として選ばれるための誘致事業を強化している。</p> <p>「富山市SDGs未来都市計画」を学習テーマとして、富山市の先進的な取り組み事例、市内施設や体験メニューなどを素材とした教育旅行の旅行商品化を目指し、令和2年度は対象施設の洗い出し、課題の整理などを行い、整備計画の策定をすすめている。</p> <p>このような背景の中で、富山市が教育旅行の目的地として選ばれるための取り組みや、富山市での教育旅行がより充実したものなるための取り組みなど、広く提案してもらいたい。</p>
2	富山市 (活力都市推進課)	歩くライフスタイル(とほ活)への転換に向けた取り組みについて	<p>歩くことは、健康面への効果だけでなく、歩くひが増えることによる賑わいの創出や地域経済への波及効果、公共交通の利用促進、人との出会いを通じたソーシャルキャピタルの醸成など、様々な効果をもたらします。</p> <p>富山市では、こうした多様な効果に着目し、過度に自動車に依存した生活から、日常的に歩くライフスタイルへの転換を図るため、H30年度に「富山市歩くライフスタイル戦略」を策定しました。</p> <p>R元年度には、歩くライフスタイルを促すキャッチコピーとして「とほ活(=富山で歩く生活)」を掲げ、同年11月のスマホアプリ「とほ活」リリースや、各種イベントの開催と連携、広告媒体を活用した普及を通して、歩く行動へのきっかけづくりを進めています。(「とほ活」資料参照)</p> <p>一方で、歩くライフスタイル(とほ活)への転換を通して、歩く生活の定着化に向けては、幅広い視点からのアプローチや持続的な取り組みが必要であると考えており、多彩なアイデアや施策の提案を求めています。</p> <p><アイデア・提案例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSを活用した情報発信 ・歩きたくなる空間整備案 ・所定のターゲット層に対する働きかけ方 ・歩く行動への転換に向けた市民参加手法 ・とほ活アプリの機能拡充 など
3	高岡市 (都市経営課)	若者・子育て世帯への情報発信	<p>高岡市において移住支援等に取り組んでいるところではあるが、人口動態は自然動態、社会動態はともに減少傾向にある。</p> <p>特に若者・子育て世帯の大都市圏への流出が進んでおり、若者・子育て世帯を地域に移住または定住させることを目的とした効果的な情報発信手法について検討を行い、有効な施策の提案又は実際に情報発信事業を実施してもらいたい。</p> <p>高岡市(富山県)について、地域の特色(の違い等)を分析し、どのようなコンセプトで推進していくべきなのか、どのような地域であれば移住・定住したいと思えるのか、若者の目線で検討してもらいたい。</p>
4	高岡市 (都市経営課)	関係人口創出	<p>人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面しており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されている。</p> <p>既に移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる「関係人口」の地域外からの交流の入り口を増やすことが必要だと考えられる。</p> <p>地域外の人に関係人口となる機会・きっかけの場の創出及び、継続した「つながり」づくりについて、どのようなものが効果的であるか検討し、有効な施策の提案又は実施してもらいたい。</p>
5	魚津市 (企画政策課)	SNSを活用した効果的な情報発信方法	<p>通信技術の発達・デジタル化の推進により、自治体における各種情報の発信方法に変化が生じている。</p> <p>当市においては、ツイッター、フェイスブック等による発信を行っているほか、若者からお年寄りまで普及率の高いLINEに着目し、公式アカウントの開設を検討しているところである。</p> <p>行政ニーズが多様化する一方で、行政が提供する市民サービスの多角化が求められていることを見据え、流行の先駆者である若者目線から、市民の目を引く効果的な情報発信方法を探る。</p>
6	魚津市 (地域協働課)	これからの地域づくり	<p>本市においては、近年の少子高齢化や核家族化の進行、若者の転出等により、地域への関心や地域コミュニティ機能の低下が大きな課題となっております。それに伴い、若い世代の地域活動への参加・協力が得られにくい状況となっております。</p> <p>地域では地域特性に応じた魅力あるまちづくりを進めるため、地域振興会が中心となりまちづくり計画を策定し、まちづくり計画に沿って各地域で事業を進めていくこととしています。</p> <p>そこで、これからの地域づくりにおいて若い世代が関心を持ち、参加したくなるような取り組みについて、若者の目線で提案していただきたい。</p>
7	砺波市 (生涯学習・スポーツ課)	子どもたちの「愛着」「誇り」「シビックプライド」を高める、ふるさと学習を考える	<p>まちに対する「愛着」「誇り」「シビックプライド」を高めるためには、ふるさとについて学ぶことが重要です。特に、まちの将来を担う子どもたちへの教育が大切です。</p> <p>そのため、砺波市の小中学校においても、様々な形でふるさと学習が実施されています。しかし、子どもたちがどのように愛着や誇りを感じているかは調査されていません。</p> <p>子どもたちの郷土史に対する認識や興味・関心を調査し、それに基づき興味・関心を高める方法を考案していただきたい。そして、文化財マップなどの教材作成、子どもたちの主体性を引き出す授業方法の考案など、若い感性を生かした子どもたちの心に響く実践をしていただきたいです。</p>
8	南砺市 (生活環境課)	剪定枝、落ち葉清掃等における野焼きへの意識改革	<p>庭木の手入れや清掃等で生じる剪定した枝や落ち葉等の処分方法として、市では燃えるごみとして一般ごみと同様な排出をお願いし、野焼きを行わないよう周知しているところである。</p> <p>しかしながら、処理の容易さから野焼き行為は減少していない状況にある。野焼きに起因する火災や死亡事故が発生し、気管支炎等の身体・健康への影響も懸念されている。</p> <p>火災予防や健康、悪臭・大気汚染等環境の観点からも野焼き行為の禁止を訴えているが、昔からやっていると安易に野焼きが行われていることから、住民の意識改革を図り野焼き行為の減少を果たしたい。</p> <p><特記事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・剪定枝等については、たい肥化施設による処理が可能。 ・ハード面ではなくソフト面でのアプローチ方策について検討していきたい。
9	南砺市 (生活環境課)	南砺市における不法投棄の撲滅に向けて	<p>現在、南砺市においては、不法投棄監視員によるパトロール活動看板の設置、防犯カメラによる監視、警察や他の関係団体との情報共有等によって、不法投棄の撲滅・減少に向けて活動している。</p> <p>しかし、未だに、家電リサイクル法4品目、廃タイヤ、空き缶やペットボトルといった一般廃棄物の不法投棄が後を絶えず、物質によっては有害物質が漏れ出し、環境破壊を引き起こすことにもなりかねない。</p> <p>本課題では、不法投棄の現状を踏まえ、撲滅・減少に向け、有効な施策について提案・実施してもらいたい。</p>

No	自治体等名	地域課題名	概要
10	南砺市 (エコビレッジ推進課)	SDGsの自分ごと化を推進するには	<p>南砺市は2019年7月、内閣府からSDGs未来都市に選定され、SDGsの達成に向けた取組みを推進しています。</p> <p>市内小中学校へは市担当者が出向いて出前講座を実施しているほか、市内高校や県内大学とはワークショップの開催等連携した取組みを実施しており、若年層へのSDGs認知度が上がってきている状況です。</p> <p>一方、年代が上がるにつれて認知度は下がる傾向にあります。市が実施している市民意識調査では、全体として6割を超える市民がSDGsについて「全く知らない、初めて聞いた」と回答しています。</p> <p>SDGsを難しく考えたり「世界の話で自分には関係ない」と思われる場合もありますが、普段の生活で当たり前のように実践していることが、実はSDGsにつながっていることが多々あります。</p> <p>こうしたことを市民に意識付けてもらい、SDGsの自分ごと化につなげる仕掛けづくりについて、2030年に社会を担う学生の視点で提案いただきたいと考えています。</p>
11	南砺市 (政策推進課)	南砺市のキャラクター「NANTOKUN」をもっと活躍させたい	<p>当市には、市の公式キャラクター「NANTOKUN」がいます。市の観光協会では着ぐるみを運営するなど、市民に親しまれています。</p> <p>ただ、その出自は特殊で、元々は合併5周年の「ブランドマーク」を募集したところ、採用された作品がキャラクターのようであったことから、着ぐるみが作られるなど、活動が始まりました。</p> <p>元々ブランドマークとして様々な商品やチラシなどに表示してもらうことを想定していたこともあり、現在「NANTOKUN」にはクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを付与し、「商品利用を許可し、改変を許可しない条件を守れば、自由に使用して良い」としています。</p> <p>そのため、例えば「NANTOKUN」のLINEスタンプを個人で作成販売するといったことも可能です。</p> <p>しかしながら、そのことが知られておらず、ライセンスを活かした使用が増えているとは言い難い状況です。</p> <p>については、ライセンスを活かした「NANTOKUN」の活動について、学生の視点で様々な提案をいただければと考えています。</p> <p>※「NANTOKUN」の使用について(市HP) https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/info/detail.jsp?id=14436</p>
12	射水市 (政策推進課)	男性の育児参画について	<p>日本は、男性の子育てを含む無償の家事労働に費やす平均時間が他の諸外国と比べても低い結果となっている。</p> <p>女性のみが子供の世話をするという不均衡な負担は母親のフルタイムの仕事への再就職を妨げ、雇用主が子育て世代の母親を雇う機会を減らすことに繋がる恐れがある。</p> <p>そのため、出産子育てに対するそれらの不安を軽減するために、男性が育児休暇を取ることによるメリットが生じるような仕組みづくりや育児負担の平等化が当たり前となるような制度設計を組み立てていく必要がある。</p> <p>この問題を解決するための方策を提案いただきたい。</p>
13	射水市 (政策推進課)	合計特殊出生率の減少に対する方策について	<p>本市の合計特殊出生率については、過去5年間のデータで見ると全国平均や県全体の平均よりは高い数値となっているが、安定した出生率を確保するための方策が必要である。</p> <p>原因としては、婚姻率や出生率は近年減少傾向であることなど様々な要因が考えられる。</p> <p>これらの原因の分析とそれらの問題の解決のための方策や今後の支援のための体制構築について提案いただきたい。</p>
14	朝日町 (教育委員会事務局)	学校のGIGAスクール化に伴うオンライン授業の有効的な活用・発信について	<p>令和2年度に国のGIGAスクール構想に伴い、全国的に学校のGIGAスクール化が進んだ。</p> <p>その中でも朝日町は、以前よりICT教育に精力的に取り組んできたこともあり、富山県内で最も早く、1人1台タブレット端末の配置及び学校のネットワーク環境を整えた。</p> <p>しかしながら、ハード面を整備しても、それを使ってオンライン授業を進める学校の先生方はICTの専門的な知識があるわけではないのでオンライン授業の有効的な活用や発信の仕方、生徒との接し方などについて手探りな状況で進めているところである。</p> <p>そこで、ICTの整備が進んでいる朝日町を舞台として、学生による地域フィールドワークを行ってもらい、大学生目線のオンライン授業の有効的な活用や発信の仕方、生徒との接し方について研究提案いただくと、ぜひ今後の参考にさせていただきたい。</p>
15	県 (くすり政策課)	医薬品産業に関する企業経営者の昭和・平成回顧録及び未来へのメッセージ集作成	<p>(1)課題＝解決したい問題の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「富山県薬業史」編さん後、昭和後期以降の県薬業に関するまとまった資料がない。 ・こうしたなか、県薬業を牽引してきた各社代表等が近年逝去され、また、世代交代が進んでおり、記憶・口伝が薄れ、重要な資料や情報が散逸するおそれがある。 ・新たな局面を迎える県薬業にとって、これまでの薬業発展の歩み(＝本県薬業の強みや蓄積された産業集積など)を念頭に置きながら、さらに飛躍するための新たな風や取組みも必要となっている。 <p>(2)その課題解決において自治体に取り組めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な予算確保、資料集成、薬業振興政策の立案・実施 <p>(3)学生による地域フィールドワークに求めたいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製薬企業社長等にインタビューを行い、富山県薬業発展に関する昭和・平成回顧録及び未来へのメッセージ集のとりまとめ <p><特記事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県より、製薬企業社長などキーパーソンの紹介が可能 ・富山県は、研究成果を薬業史の作成や関連政策立案に活用